



日本整形外科学スポーツ医学会 ニュースレター

No.1 1998年11月30日発行

■ ようこそ 第25回日本整形外科スポーツ医学会へ ■



第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 会長 圓尾 宗司

晩秋の候、先生方におかれましては益々ご清栄のことと存じます。

さて、私は1999年の第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会の会長を仰せつかり大変光栄に存じます。兵庫医科大学整形外科学教室をあげてこの重責を果たすべく、鋭意準備を進めているところであります。

過去に行われていたスポーツ実践単位がなくなつてから2～3回目となる本学会が25回という伝統に支えられつつ、ターニングポイントにさしかかっています。また、それと同時にスポーツ医学に対する社会の関心が高まり、われわれ整形外科医としても日本レベルでの対応が要求されるようになってきております。これらの点からみても、第25回学術集会は今後の本学会のあり方を問われることにもなります。また、これを機会にニュースレターも発行されるということで、このような文章を書かせていただいております。

整形外科医を中心とした本学術集会では、当然の

ことながらスポーツの障害、外傷の治療とともに予防についても討議していただき、アマチュア・プロフェッショナルそれぞれのレベルでの問題点とその予防対策を、日本のレベルで方向づけをしていただくつもりです。この2日間の会期中に、これまでに行われてきたスポーツ実践も行う予定で、予備登録を第24回学術集会の会期中に行いましたが、残念ながら参加予定者が少なく、ポートアイランド内の施設を使つての体力測定やその周辺でできるスポーツアクティビティーをすることといたしました。会期中の午後半日、スポーツ実践の是非をうらなう企画として、皆様のご支援をお願いするしだいです。

いずれにしましても、あと半年足らずの準備期間となりました。準備は着々と進み、シンポジウム、パネルディスカッション、教育研修講演とそれぞれで、素晴らしい企画ができてつあります。できるだけ多くの皆様の演題応募と当日の参加を得て、実り多い学術集会としていただくことを心より願います。皆様のご協力、ご支援のほどよろしく願い申し上げます。

第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会

会 期：1999年5月28日(金)・29日(土)

会 場：神戸国際会議場 ほか

内 容：1) シンポジウム

1. スポーツ選手腰部ヘルニアへの手術法の選択

2. スポーツ選手の手部傷害の治療

2) 一般演題(口演、展示発表)

競技別、部位別にパネル形式の発表を予定しています。

演題締切：1998年12月18日(金)消印有効

事務局：〒663-8501 西宮市武庫川町1-1

兵庫医科大学整形外科学教室内

第25回日本整形外科スポーツ医学会事務局

TEL 0798-45-6452/FAX 0798-45-6453

第24回日本整形外科スポーツ医学会学術集会を終えて

第24回日本整形外科スポーツ医学会学術集会 会長 赤松 功也

1998年9月10, 11, 12日の3日間、第24回日本整形外科スポーツ医学会学術集会が開催された。会場は八ヶ岳山麓の大泉村にある八ヶ岳ロイヤルホテルである。ここは有名なりゾート地清里に近く、また駐車も無制限に可能というわけで約500名の参加者があった。聞くところによると高地のこの場所でこれほど快晴になることは珍しいらしく、おそらくは参加者の普段の心掛けがよいせいで天も味方したのだと噂しあったものである。このような地の利を得たことから、主催者としては早期より是非スポーツアクティビティーの日を盛り込みたいと考えテニス、ゴルフのほか馬術なども立案していた。

演題数はポスターセッションの演題を含めて総数141題、シンポジウム2題、パネル1題そして教育研修講演が1題であった。日本整形外科スポーツ医学会は、従来より兎角スポーツ障害の機転や病態、診断さらに治療の問題点を競技の種類に基づいて分類し検討を加える傾向がある。これらにもそれなりの意義があり否定するものではないが、今回は目先を変えてスポーツ医学や選手たちの技術向上への整形外科医の貢献、さらに手段やその役割分担などに目を向けてみた。そして競技力の向上に対しては、県体育協会などを巻き込み、非医師的立場にあるトレーナーなどの関係者たちに整形外科医が積極的に接近し、1つのシステムづくりをする重要性が熱く論じられた。

そこにはチームよりも選手主体に考える必要性も求められた。整形外科医によるメディカルチェックについては、従来よりそれが行われてもそれがスポーツそのものの技術の向上に結びつかないこと、またチェックによって簡単に競技からの離脱をせまられることなどがあり、現場の監督やコーチたちの意見との間に大きなギャップがあることがあげられた。さらに選手自身による自己管理法の指導の重要性も討議された。

よりよい成績を出すためのドーピングの問題はことに世間を騒がしているが、この方面の実態が東京大学大学院総合文化研究科の川原 貴 助教授により生々しく講演された。



各種競技の各論的項目のなかでは、部位によつての新しい見解が述べられていたが、なかでも各種関節運動をいままでの静的観察から動的な観察に変更して検索するキネマティックMRIが注目され、野球における肩関節運動障害で注目をあび、さらにいまはやりの低侵襲手術としての鏡視下の肩関節手術も新しい話題をさらっていた。あまりに衝撃的な報告としてはスポーツにおける頸髄損傷に伴う四肢麻痺がある。この種の障害は医学生においても例外ではなく、悲惨な事実が報告され、とくにラグビーにおけるスクラムの組み方に対する指導が話題になった。このほか新しい雪面競技であるスノーボードによる外傷は、手関節部骨折にとどまらず頭蓋骨骨折から死亡にいたる事故も報告され、その対策として技術の教育と防止法の必要性が強調されていた。

スポーツアクティビティーはテニスとゴルフが行われ、ゴルフについては51名の参加者があり晴天下多いに実践を楽しまれた。スポーツ医学は「スポーツを人体の発達ならびに保健上有効に行うためにその人体に及ぼす影響・競技者の健康管理などを研究する医学」と定義されている。このような難しいことをいわなくても健康な心、強い心、そして優しい心の人々にもたせるにはスポーツが一番である。このような立派なスポーツ人を育成することもまたわれわれ整形外科医に課せられたもう1つの役割であることをこの機会に改めて認識してみたいと思う。

日本整形外科スポーツ医学会の未来へ向けて

—ニュースレターの発刊，事務局の移転にあたり—

日本整形外科スポーツ医学会 理事長 井形高明

会員諸兄姉には、ますますご健勝のことと存じます。

私どもは、競技スポーツ、健康スポーツを問わず隆盛の一途にあるわが国のスポーツ界の現状を、整形外科スポーツ医への要請の高まりであると改めて認識する必要があります。日本整形外科スポーツ医学会といたしましても、各スポーツの現場や市民のニーズに応うべく整形外科スポーツ医学、医療の質的向上、量的拡大を目指して、会員の相互の連携をいっそう深厚し、大きく踏み出していかなければならないと考えております。

このような観点から、先の総会では、事務局や評議員に関する問題など、いくつかの重要な案件をご決議いただきました。

1) ニュースレターの発刊について：今回第1号をお届けするわけですが、学会として会員の諸先生へ有用な情報をニュースとしてお知らせすることを目的としております。今後さらに紙面の充実を図ってまいります。開設を予定しておりますインターネットホームページと併せて広くご活用いただければ幸いです。

2) 事務局の移転について：有限会社ヒズ・ブレインに業務を委託することといたしました。整形外科通の局員各位のご尽力のもと、会員からの多様なニーズに十分対応してくれるものと期待しております。

3) 評議員の定数について：従来の上限「100名」から「150名」への変更をお認めいただきました。このことにより各地域においての評議員を中心とした学会活動の充実、活発化を図ってまいりたいと考えております。

今後も、会員諸兄姉のご理解とご協力を仰ぎながら、学会活動をますます活性化し、人々のスポーツにかける望みに応えてまいる所存でございます。

どうぞよろしくごお願い申し上げます。

事務局からのお知らせとお願い

■今後のお問い合わせは下記をお願いいたします。

日本整形外科スポーツ医学会事務局

〒106-0046 東京都港区元麻布3-1-38-4B 有限会社ヒズ・ブレイン内

TEL 03-3401-6511/FAX 03-3401-6526

GOTS TRAVELLING FELLOW の募集について

1999年度日本整形外科スポーツ医学会が派遣するTravelling Fellow2名を以下の要項に基づき公募いたします。なお、Fellowには、学術集会での発表が求められております。また、学会からは旅費援助として150,000円が支給されます。

募集要項

1. 応募資格：①本学会の正会員，②年齢35～45歳，③スポーツ医学に関する業績。
2. 募集人員：2名。

3. 期 間：1999年5月30日(日)～6月27日(日)
4. 訪 問 先：ヨーロッパ各地の大学，病院，施設。
5. 論文発表：学会(GOTS)での演題発表ほか。
6. 費 用：①航空運賃は各自負担，②現地滞在費用は原則としてGOTS負担，③旅費援助150,000円。
7. 提出書類：書式は事務局宛ご請求ください。①応募申込書，②履歴書(英文，写真貼付)，③研究業績一覧(論文，学会発表)，④日本整形外科スポーツ医学会評議員の推薦書。
8. 選定方法：国際委員会・理事会で審査・決定します。
9. 応募締切：1998年11月30日(月)事務局必着。
10. 送 付 先：日本整形外科スポーツ医学会事務局。

年会費について

現在、日本整形外科スポーツ医学会の年会費は12,000円です。納入方法としては、①自動振替、②銀行振込がありますが、できるだけ自動振替をご利用ください。なお、必要書類は事務局にお申し付けください。折り返しご送付申し上げます。

また、今年度年会費未納の方につきましては、近日中に請求書をお送りいたしますので、至急お手続きをお願いいたします。なお、規定により2年間会費の納入がありませんと退会扱いとなりますのでご注意ください。

関連学会・研究会のお知らせ

第26回日本整形外科スポーツ医学会学術集会

会 期：2000年5月18日(木)～20日(土)
会 場：東京国際フォーラム(東京都)
会 長：日本医科大学整形外科 白井 康正 教授

第16回中部手の外科研究会

会 期：1999年1月30日(土)
会 場：くにびきメッセ(松江市)
会 長：鳥根医科大学整形外科 越智 光夫 教授
連絡先：TEL 0853-20-2242

第20回東京膝関節学会

会 期：1999年2月20日(土)
会 場：シェーンバッハ・サポール(東京都)
会 長：獨協医科大学整形外科 早乙女絃一 教授
連絡先：TEL 0282-82-2161

第13回日本靴医学会

会 期：1999年6月17日(木)
会 場：コクヨホール(東京都)
会 長：慶應義塾大学医学部整形外科
井口 傑 講師
連絡先：TEL 03-3353-1211(内線2344)

第24回日本足の外科学会

会 期：1999年6月18日(金)・19日(土)
会 場：コクヨホール(東京都)
会 長：慶應義塾大学医学部整形外科
井口 傑 講師
連絡先：TEL 03-3353-1211(内線2344)

第10回日本臨床スポーツ医学会学術集会

会 期：1999年11月6日(土)・7日(日)
会 場：日本都市センター(東京都)
会 長：聖マリアンナ医科大学第2内科
村山 正博 教授
連絡先：FAX 045-366-1190

編集後記

日本整形外科スポーツ医学会広報委員会では、理事会・評議員会の意を受けて、本学会においてもニュースレターを発行することとしました。会員の皆様には本学会に関する最新の情報をもれなくお伝えするのがその目的です。今回はその第1号になりますが、さしあたっては、前回の学術集会との兼ねあいで、あと半年後にせまった第25回学術集会に関するお知らせが重点的な内容となりました。

また、ニュースレターの名称に関して「整形スポーツ」「整形スポーツNOW」「整形スポーツUPDATE」「整スポニュース」「整形スポーツ医NOW」などの案が出ています。会員の皆様におかれましても賛否、あるいはよい案が別にございましたら事務局までご連絡ください。

(中嶋寛之)